

オホーツク圏 経済情勢報告

令和6年11月



目 次

概況	2
1. 個人消費	3
2. 観光	4
3. 雇用	5
4. 公共事業	6
5. 住宅着工	6
6. 企業倒産	6
7. 金融	7

○利用上の注意

- 1 数字の単位未満は原則として四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合があります。
- 2 本指標は、管内分の数値等を算出するため、公表数値等を当所が独自に集計及び調整したものであり、公表元の数値と必ずしも一致しない部分があります。また、公表数値が不定期に改訂されることもあります。

○符号の用法は次の通りです。

「0」～単位未満 「-」～該当数値なし 「R」～改訂値 「▲」～マイナス 「P」～速報値

オホーツク圏経済情勢報告（令和6年10月判断）概況

	前回(6年7月判断)	今回(6年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
総括判断	持ち直しつつある	持ち直しつつある 【判断の据え置きは、令和5年7月判断以降、6期連続】	⇒	個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直しつつある。 観光は、 <u>緩やかに回復しつつある</u> 。 また、雇用は、 <u>緩やかに持ち直しつつある</u> 。

	前回(6年7月判断)	今回(6年10月判断)	前回比較
個人消費	物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直しつつある	物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直しつつある	⇒
観光	緩やかに持ち直している	<u>緩やかに回復しつつある</u>	↗
雇用	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	⇒

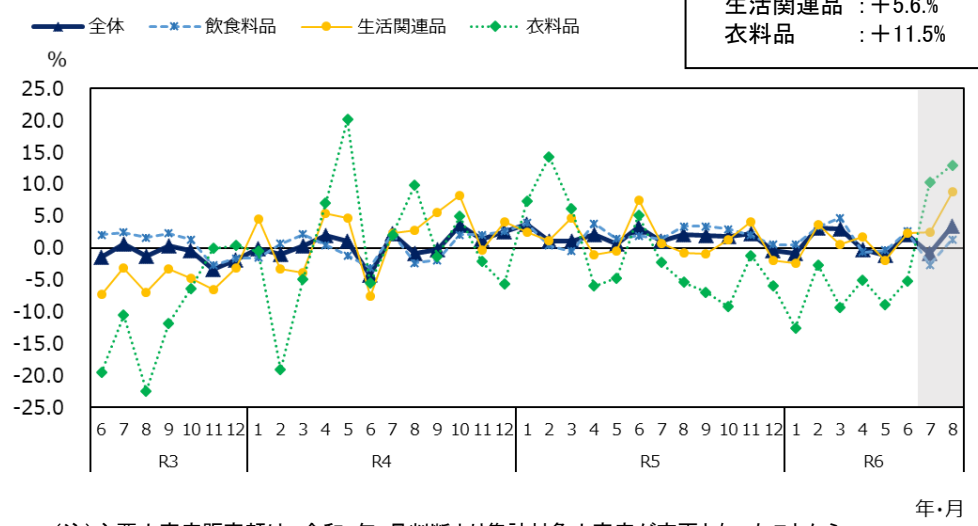
公共事業	前年を上回る	前年を上回る	⇒
住宅着工	前年を上回る	前年を下回る	↘

先行き	先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。		
-----	---	--	--

(注)6年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

1. 個人消費 ～物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直しつつある～

主要小売店販売額(前年比)の推移



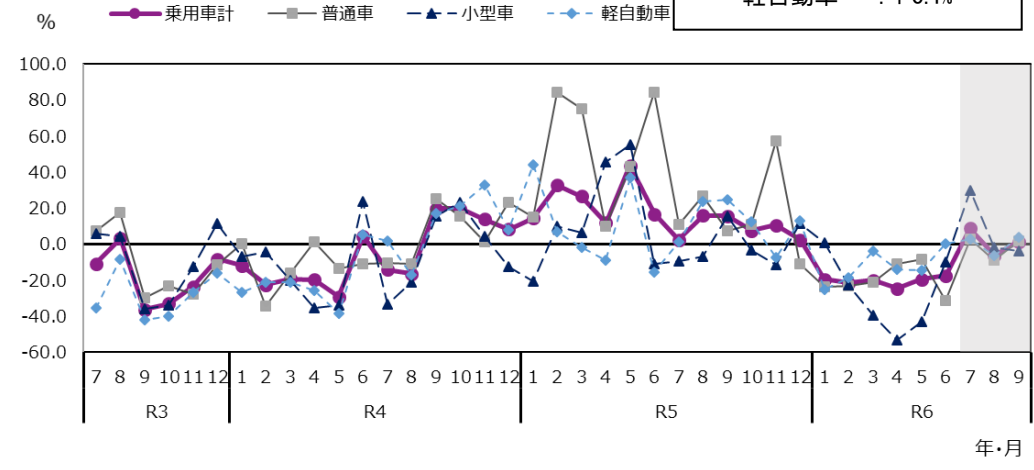
(注)主要小売店販売額は、令和5年1月判断より集計対象小売店が変更となったことから令和4年1月以降の数字全体を再計算している。
資料:管内主要小売店

- 引き続き物価上昇を背景とした家計の節約志向の高まりがみられるものの、消費者は買い物の仕方を工夫して生活に必要なものを購入している。
- 飲食料品は、昨年ほどの猛暑とならず飲料品・氷菓で反動減があったものの、米の販売価格が大幅上昇したことから前年をやや下回る範囲に収まった。
- 生活関連品は、引き続き化粧品が好調に推移し前年を上回った。
- 衣料品は、紳士服やトラベル用品が振るわなかったが婦人服の動きがよかったことから前年を上回った。
- 新車登録台数は、半導体不足の解消により前年を上回ったものの、一部メーカーの生産・出荷停止の影響が見られる。
- このように、個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直しつつある。

【企業・関係団体からの生の声】

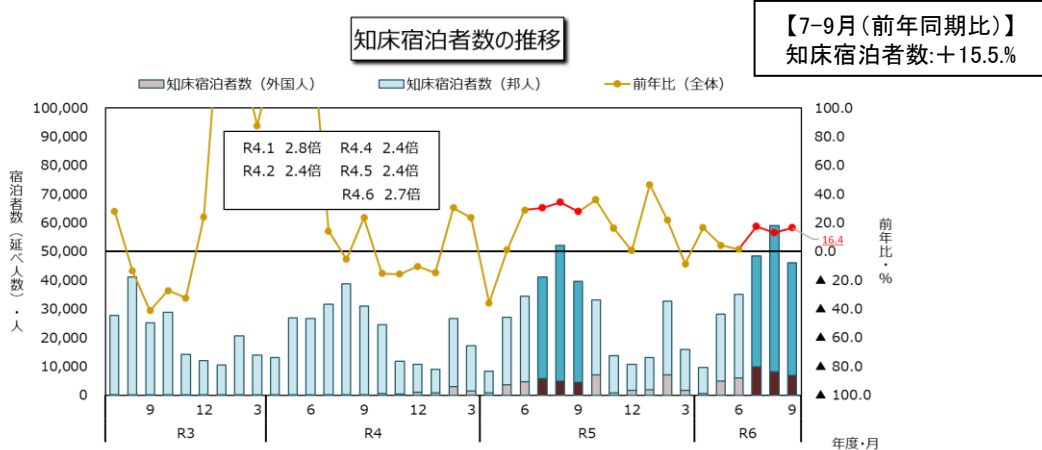
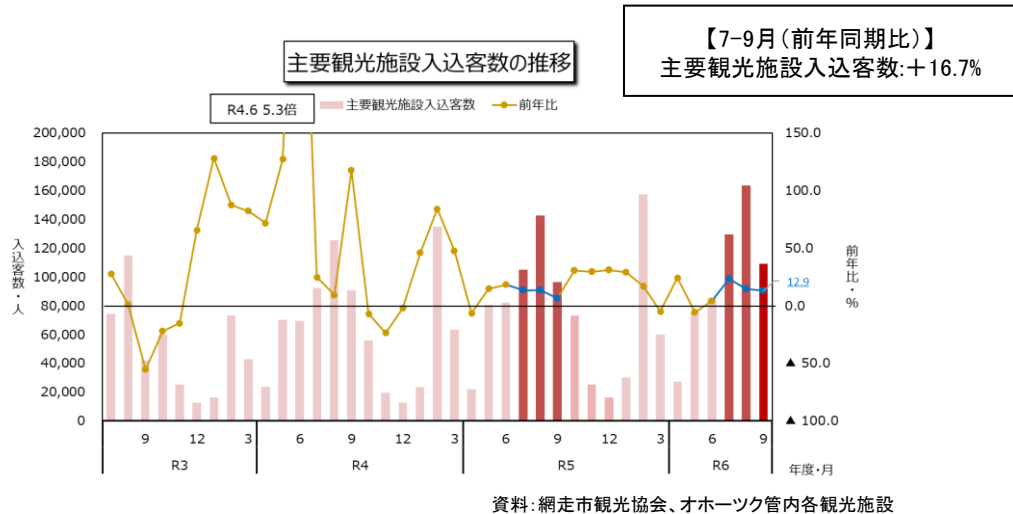
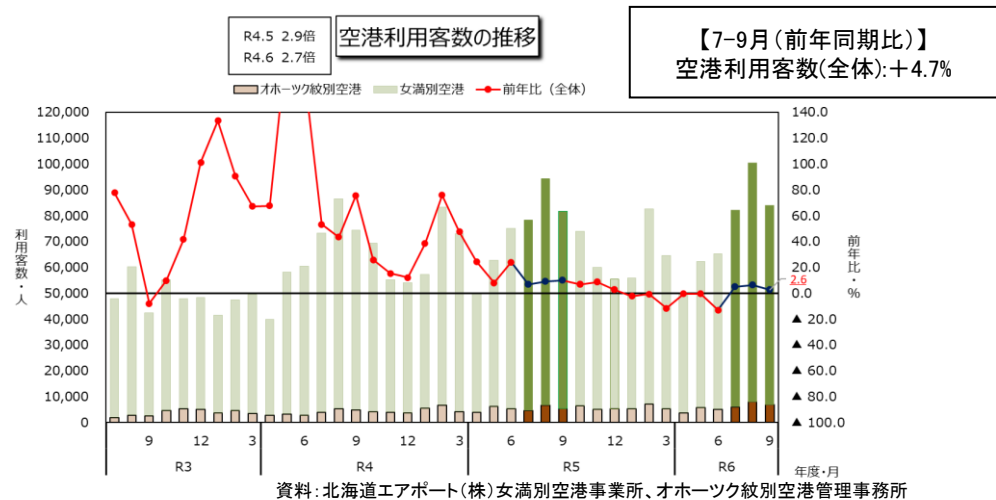
- 物価が上昇しているものの、食料品等の生活必需品の購入点数はあまり減少しなかった。節約志向は引き続きみられ、複数店のチラシを比較し、はしごして安い商品を買いたいなど、消費者は買い物の仕方を工夫して対応している。(大型小売店)
- 物価上昇や燃料価格上昇はこれからも続いていけようが、消費者マインドについてはあまり悲観的に見ていない。燃料費が高騰すれば節電のため暖かい寝具・衣料の購入が増えるなど、別のものの売上が伸びることもあるだろう。(大型小売店)
- PBの売上は引き続き堅調である。メーカー品と比較して安価であるため、メーカー品で値上げがあると選ばれやすい。(大型小売店)
- 販売価格が大幅上昇した米や、購入点数があまり落ちなかった青果の売上が全体をけん引した一方、値上げにより多くの品目で売上が伸び悩んだ。(大型小売店)
- デリカ・冷凍食品が引き続き堅調だった一方、氷菓は昨年ほど暑くならなかったので振るわなかった。(大型小売店)
- 衣料品は靴・婦人服の売上はよかった一方、トラベル・紳士服はあまりよくなかった。市内大型小売店の撤退により顧客が流入し、売上が伸びた。(大型小売店)
- 化粧品は、売場改装効果に加え、一度の購入額が大きい顧客が一定数いることから、売上は好調である。(大型小売店)
- 仕入価格上昇によりメニュー価格を値上げしたが、1日当たりの来客数は増加しており、値上げによる客離れはあまり見られない。(飲食サービス業)
- 自動車は、物価上昇や性能向上により販売価格が上昇し、消費者にとって買いにくくなっているものの、中古車販売イベントの来場者数がコロナ禍前と変わらないことなどから、消費者マインドは悪くない。(自動車関連団体)
- 半導体不足による納期遅れはほぼ完全に解消されており、登録台数は前年を上回っている。(乗用車販売店)

乗用車新車登録台数(前年比)の推移



資料:(社)日本自動車販売協会連合会北見支部

2. 観光 ～緩やかに回復しつつある～



- 夏季における空港利用客数は、引き続き各路線(東京便、関西便)に持ち直しの動きがみられ、前年を上回った。
- 夏季における主要観光施設入込客数及び知床宿泊者数は、国内客を中心に堅調に推移したほか、外国人観光客の入込も個人客を中心に回復しつつあることから、前年を上回っている。
- このように、観光は、緩やかに回復しつつある。

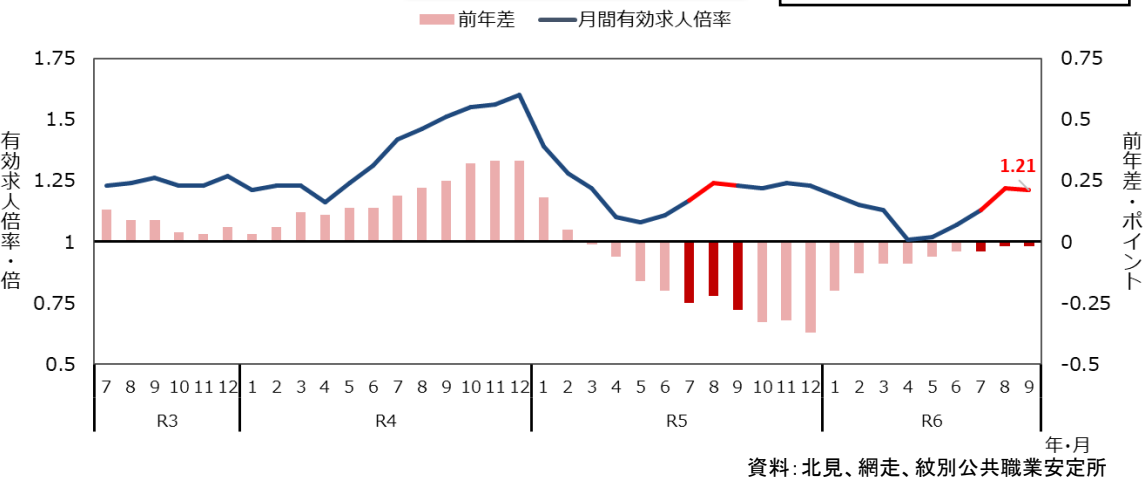
【企業・関係団体からの生の声】

- 宿泊者数は特に道内客が増加しており、観光目的のほか、公共事業に関係する土木関係業者やコロナ禍明けによる商談機会の増加により、ビジネス目的の利用が増えてきている。(観光協会)
- 宿泊者数は国内客・国外客ともに増加している。特に、国外客は大きく増加しており、渡航制限緩和のあった中国人観光客は前年比おおよそ3~4倍に増加した。(観光協会)
- 国内客と海外客の割合は、夏季は8:2程度で国内客がメイン。海外客は個人客が増えている印象。国内客は道内がメインだが、最近では道外客も増えている。(紋別地区 観光施設)
- バスや飛行機などのコストアップによりツアー代金が高騰しており、旅行代理店を挟まず個人で手配する方が割安であることから個人旅行客が増加している一方、国内団体ツアー客数は概ね昨年並みまたは減少傾向にある。(知床地区 宿泊施設)
- 海外客は、アジア圏(台湾、香港、シンガポール)中心。中国本土が増えている他、欧米圏(アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス)も増えてきている。(知床地区 宿泊施設)
- コロナ禍で一度旅行会社との関係性が途切れたことから、7・8月には、市の職員とともに海外現地を往訪し、香港・シンガポール・台湾の航空会社・旅行会社向けに宣伝、誘致活動を行ったところ、需要があるのを感じた。(観光協会)

3. 雇用 ～緩やかに持ち直しつつある～

有効求人倍率（常用）の推移

【7月-9月】
月間有効求人倍率: 1.19倍
前年同期差: ▲0.02ポイント

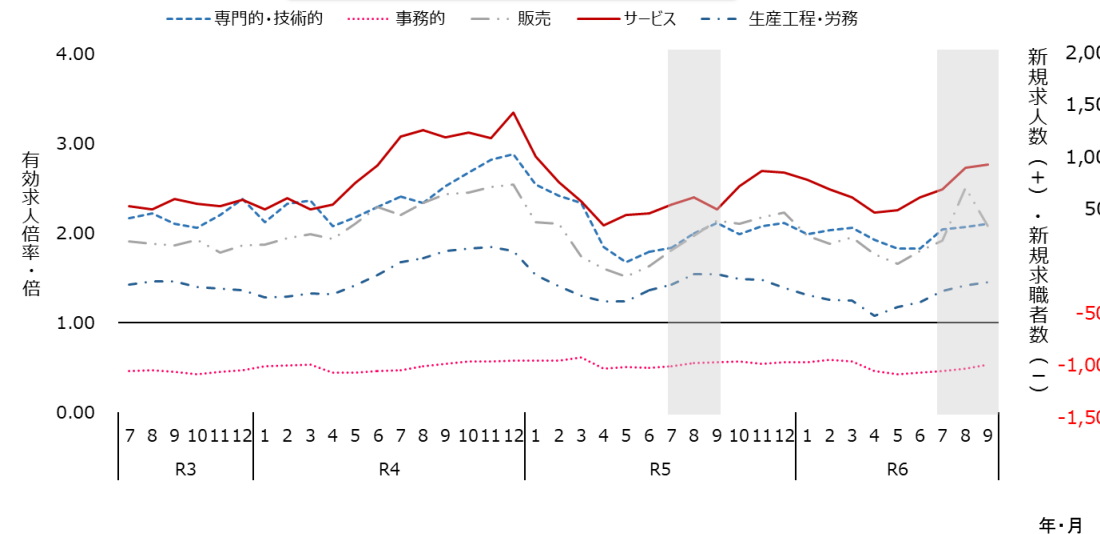


○ 有効求人倍率は、有効求人数が減少していることから前年を下回っているものの、緩やかに持ち直しつつある。

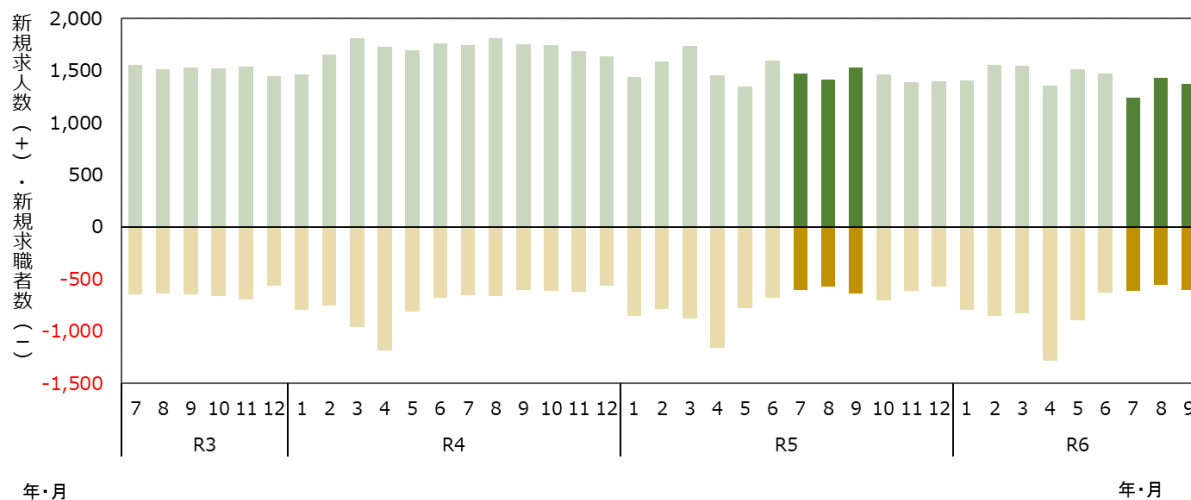
【企業・関係団体からの生の声】

- 引き続き人手不足気味である。特に調理人のような技術を必要とする職種は慢性的に不足しており、専門求人サイトを利用するなどしている。従業員確保のための取り組みとして、初任給の大幅上げや福利厚生の充実に取り組んでいる。(宿泊業)
- 引き続き光熱費・原材料の高騰及び人件費の上昇により、企業の経費削減の動きから求人数が減少している。一方、人手不足は解消されていない。人件費抑制のため企業側は新卒採用したいものの、少子化に加えオホーツク管外の大学・専門学校に進学しそのままオホーツク管内に戻らない学生が増加していることから、新卒求職者数は減少。管内新卒(令和7年3月卒・高校生)の9月末時点での求人倍率は4.38倍(前年同期差▲0.65pt)となっている。(公共職業安定所)
- 求人を出すと応募は来るものの、条件に合う応募者がいない。将来を見据えて新卒採用したいがなかなか人が集まらず、欠員補充のための中途採用が中心となっている。(観光業、食料品製造業)

職種別有効求人倍率の推移 (求職者上位5業種)

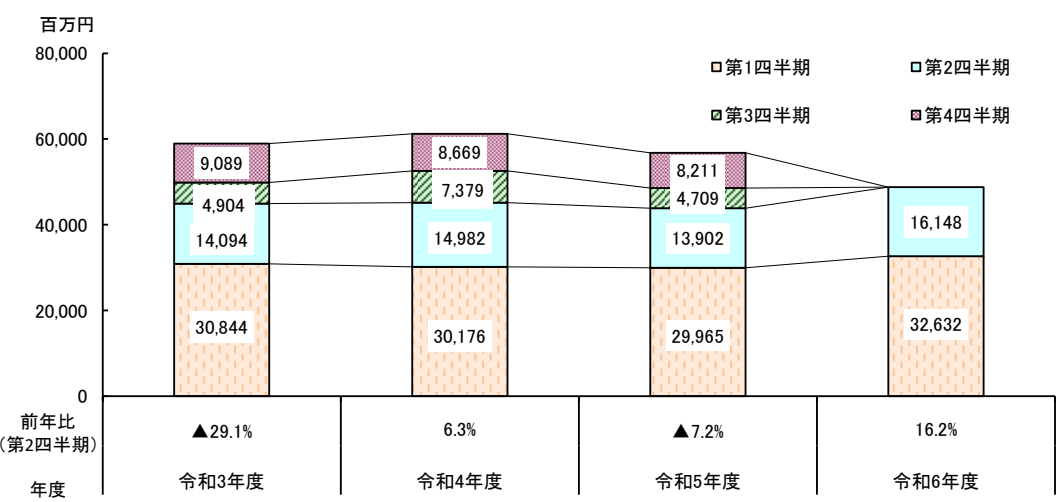


新規求人数・求職者数の推移



4. 公共事業 ～前年を上回る～

公共工事前払金保証請負金額の推移



資料: 北海道建設業信用保証(株)

○ 公共事業を前払金保証請負金額で見ると、令和6年7月から9月においては、前年を上回っている。

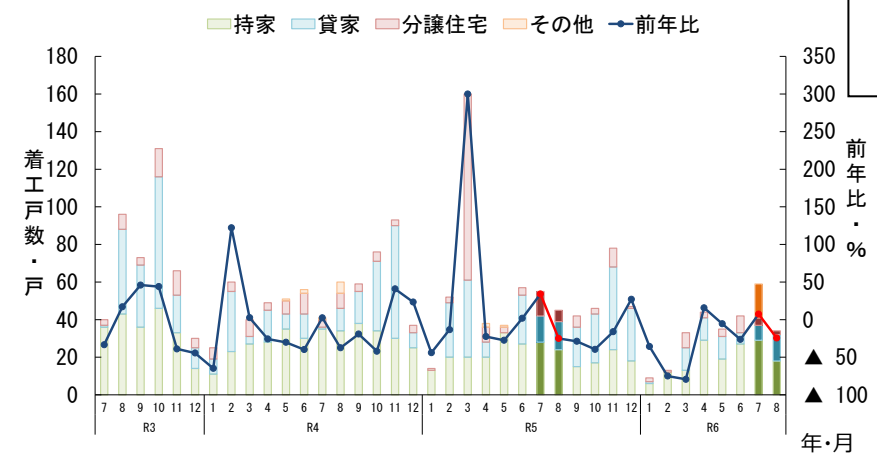
【企業・関係団体からの生の声】

- 資材価格の高騰などにより工事金額が増加し、前払金保証請負金額が増加している可能性はあるのではないか。(建設関連業)
- 受注件数は減少していないものの、資材価格・人件費の高騰により、収益は落ちている。(建設業)
- 現場監督は経験の長い60代の人材が中心となっており、従業員の高齢化が進んでいることが懸念。(建設業)

5. 住宅着工 ～前年を下回る～

○ 管内3市(北見市・網走市・紋別市)の新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、分譲住宅のいずれも前年を下回っている。

新設住宅着工戸数の推移



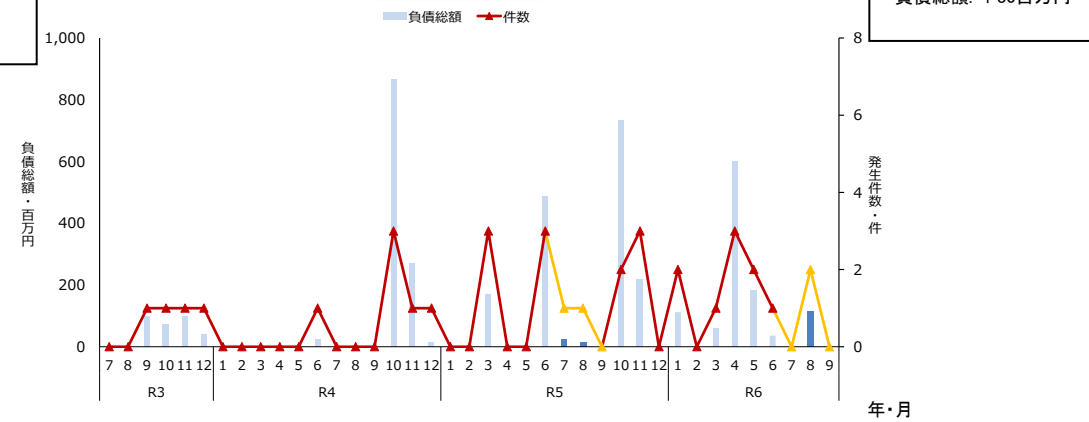
【7-8月(前年同期比)】
 新設住宅着工戸数計▲7.0%
 うち持家:▲9.6%
 うち貸家:▲24.1%
 うち分譲住宅:▲68.4%

資料: 国土交通省「住宅着工統計」

6. 企業倒産 ～件数は前年並み～

○ 企業倒産は、件数は前年並み、負債総額は前年を上回っている。

企業倒産の推移



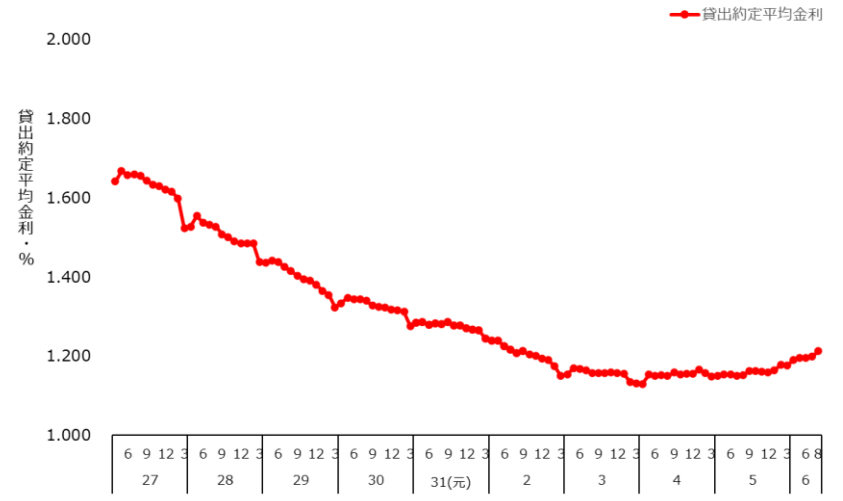
【7-9月(前年同期差)】
 件数: ±0件
 負債総額: +80百万円

資料: (株)東京商工リサーチ北見支店

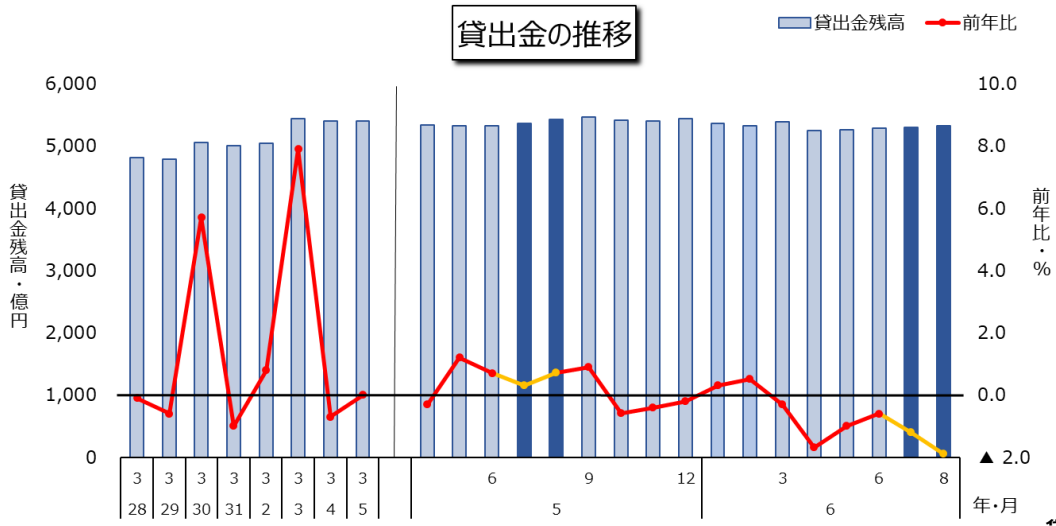
7. 金融 ～貸出金は前年を下回り、預金は前年を上回る～

○ 貸出金残高は、運転資金が減少したことなどから、前年を下回っている。
 ○ 預金残高は、前年を上回っている。

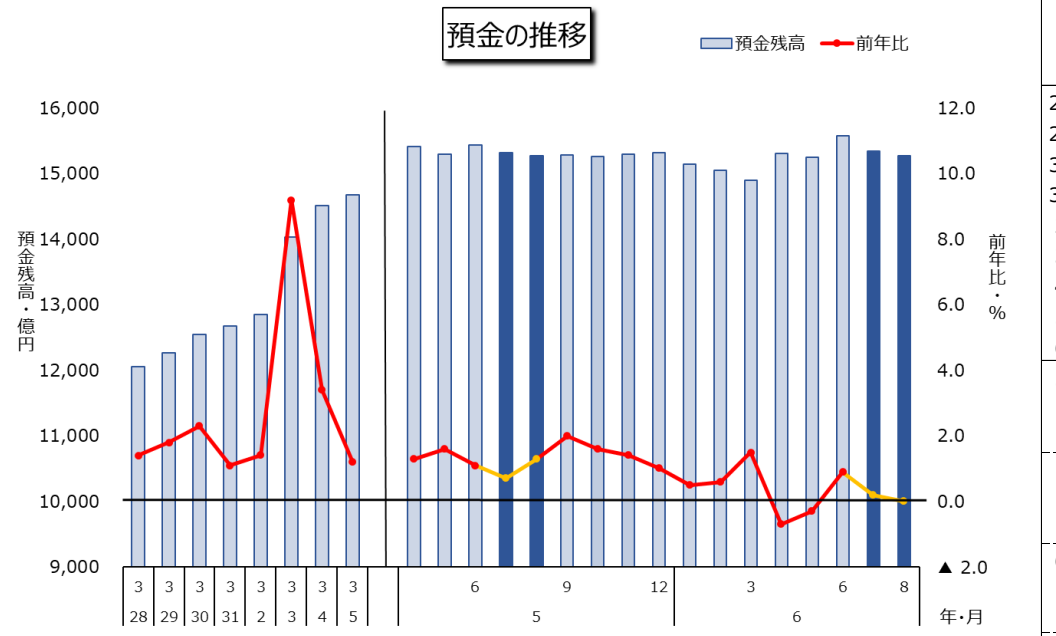
貸出約定平均金利の推移



貸出金の推移



預金の推移



貸出金・預金の推移 (銀行・信用金庫)

年 月	貸出金残高				預金残高				貸出約定平均金利			
	貸出金残高		設備資金		運転資金		地方公共団体		貸出約定平均金利			
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年差			
28.3	4,810	▲0.1	1,991	1.6	1,642	▲6.3	1,177	6.5	12,056	1.4	1.523	▲0.100
29.3	4,781	▲0.6	2,037	2.3	1,572	▲4.3	1,172	▲0.5	12,269	1.8	1.437	▲0.087
30.3	5,053	▲5.7	2,083	2.2	1,688	▲7.4	1,282	▲9.4	12,546	2.3	1.323	▲0.114
31.3	5,001	▲1.0	2,105	1.1	1,626	▲3.7	1,270	▲0.9	12,678	1.1	1.276	▲0.046
2.3	5,040	▲0.8	2,166	2.9	1,610	▲1.0	1,264	▲0.5	12,856	1.4	1.243	▲0.034
3.3	5,439	▲7.9	2,224	2.7	1,875	▲16.5	1,340	▲6.0	14,034	9.2	1.150	▲0.093
4.3	5,402	▲0.7	2,264	1.8	1,842	▲1.8	1,297	▲3.2	14,509	3.4	1.131	▲0.018
5.3	5,403	▲0.0	2,353	3.9	1,852	▲0.6	1,198	▲7.6	14,681	1.2	1.148	▲0.017
6.3	5,385	▲0.3	2,381	1.2	1,809	▲2.3	1,195	▲0.2	14,900	1.5	1.176	▲0.028
7.3	5,359	▲0.3	2,351	2.6	1,839	▲0.0	1,170	▲3.6	15,315	0.7	1.151	▲0.002
8.3	5,425	▲0.7	2,356	2.6	1,890	▲0.7	1,180	▲2.7	15,279	1.3	1.152	▲0.002
9.3	5,469	▲0.9	2,369	2.7	1,960	▲0.7	1,141	▲0.0	15,282	2.0	1.162	▲0.004
10.3	5,412	▲0.6	2,353	1.5	1,938	▲2.2	1,120	▲1.9	15,263	1.6	1.162	▲0.009
11.3	5,400	▲0.4	2,359	1.6	1,921	▲1.9	1,120	▲1.7	15,299	1.4	1.160	▲0.004
12.3	5,433	▲0.2	2,377	1.5	1,936	▲1.3	1,120	▲1.7	15,318	1.0	1.159	▲0.004
6.1	5,363	▲0.3	2,373	1.5	1,861	▲0.7	1,129	▲0.5	15,149	0.5	1.164	▲0.002
2.2	5,328	▲0.5	2,371	1.2	1,824	▲0.1	1,133	▲0.3	15,049	0.6	1.179	▲0.022
3.3	5,385	▲0.3	2,381	1.2	1,809	▲2.3	1,195	▲0.2	14,900	1.5	1.176	▲0.028
4.4	5,250	▲1.7	2,384	1.0	1,742	▲2.9	1,124	▲5.2	15,308	▲0.7	1.190	▲0.040
5.5	5,262	▲1.0	2,384	1.2	1,733	▲3.3	1,145	▲2.1	15,250	▲0.3	1.196	▲0.042
6.6	5,289	▲0.6	2,379	0.9	1,765	▲1.6	1,145	▲2.1	15,575	0.9	1.196	▲0.042
7.7	5,294	▲1.2	2,379	1.2	1,769	▲3.8	1,145	▲2.1	15,343	▲0.2	1.200	▲0.049
8.8	5,320	▲1.9	2,386	1.3	1,789	▲5.3	1,145	▲2.9	15,278	▲0.0	1.213	▲0.060

【7月-8月(前年同期比)】
 貸出金平均残高:▲1.6%
 (うち設備資金:▲1.2%)
 (うち運転資金:▲4.6%)
 (うち地方公共団体:▲2.5%)
 預金平均残高:▲0.1%

※ゆうちょ銀行を除く

資料: 北海道財務局北見出張所

【問い合わせ先】

希望ある未来へ 地域と歩む 北海道財務局

財務省 北海道財務局 北見出張所 財務課

〒090-0018 北見市青葉町 6 番 8 号 北見地方合同庁舎
TEL 0157 (24) 4167

本報告は、北海道財務局北見出張所ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス <https://ifb.mof.go.jp/hokkaido/kitami/index.html>

北海道財務局北見出張所

検 索





オホーツクール
cool!